

SCOUTING



2023
No.757
9



特集

第25回 世界スカウト ジャンボリー

CONTENTS

- 02 第25回世界スカウトジャンボリー

- 11 ニッポン全国元気団紹介
佐賀県連盟 有田第1団

- 12 よりよい「体験活動」を、
より多くの子どもたちにとけよう！
～スカウティングが取り組む地域課題と連携について～

- 13 ボーイスカウト×ユニクロ× UNHCR
難民支援衣料回収プロジェクト

- 13 創立100周年記念史「日本ボーイスカウト運動
史Ⅲ」と『より良い世界の創造を目指して ～日
本ボーイスカウト運動100年史～ 下』の発刊
について

- 14 ボーイスカウトの国際事業

- 17 組織活性化戦略セミナー

- 18 全国大会で、AIS ポリシーについて
セミナーを開催しました！！

- 19 ソングフェロー 全国大会テーマ集会
♪ 歌声が広がるスカウト活動 ♪

- 20 ローカルホットライン

- 21 野外活動のための安心・安全講座
気象予報と安全 —その空は世界と繋がっている

- 22 維持会員

- 22 スカウトミュージアム・ライブラリー
2023年7月9日に新装オープンいたしました。

- 23 ボーイスカウト活動のパスポート
マイページ登場！



25th Worlds Jamboree

第25回世界スカウトジャンボリー 제25회 세계스카우트잼버리

8月1日から8月12日まで、大韓民国の全羅北道にあるセマングムで開催された第25
敷地面積は約8.8平方キロメートルの広く、一面に海を見下ろせる会場で世界150の
スカウトが集まりました。さまざまな体験や挑戦があった25WSJでの、スカウトたち

開会式

Opening Ceremony

개회식

- 1 韓国空軍アクロバット部隊のブラックイーグルスによるアクロバット飛行。なかなか見ることのできない貴重な出来事！
- 2 開会式で参加国の国名が呼ばれた。『ジャパン』と呼ばれ大きな声とともに立ち上がるスカウトたち。
- 3 マスコット：セボミ／セボミはセマンガムで育てられた虎の赤ちゃんです。



3



Draw your Dream!

Scout ree

25WSJ 日本派遣団国旗授与式

日程：2023年7月28日（金）
場所：赤坂東邸
秋篠宮皇嗣殿下より国旗を拝受いたしました。



写真提供：秋篠宮家

大会概要

期間：2023年8月1日（火）から8月12日（土）
参加者：150の国と地域より約43,000人
※うち、日本派遣団 1,563人
場所：大韓民国・全羅北道 セマンガム
テーマ：Draw your Dream!（あなたの夢を描こう！）
※参加国数および参加人数は8/1時点の世界スカウト機構の発信より

日本派遣団／合計 1,563人

参加隊 / 35隊 1,388人（スカウト1,249人、指導者139人）
派遣団本部員（CMT） / 30人
国際サービスチーム員（IST） / 145人（うち1人JPT）

回世界スカウトジャンボリー（25WSJ）。
国と地域よりおよそ43,000人の
の様子をお届けします！



獅子舞や盆踊り、折り紙や浴衣、習字など、日本の文化を通じて海外のスカウトと交流を図りました。

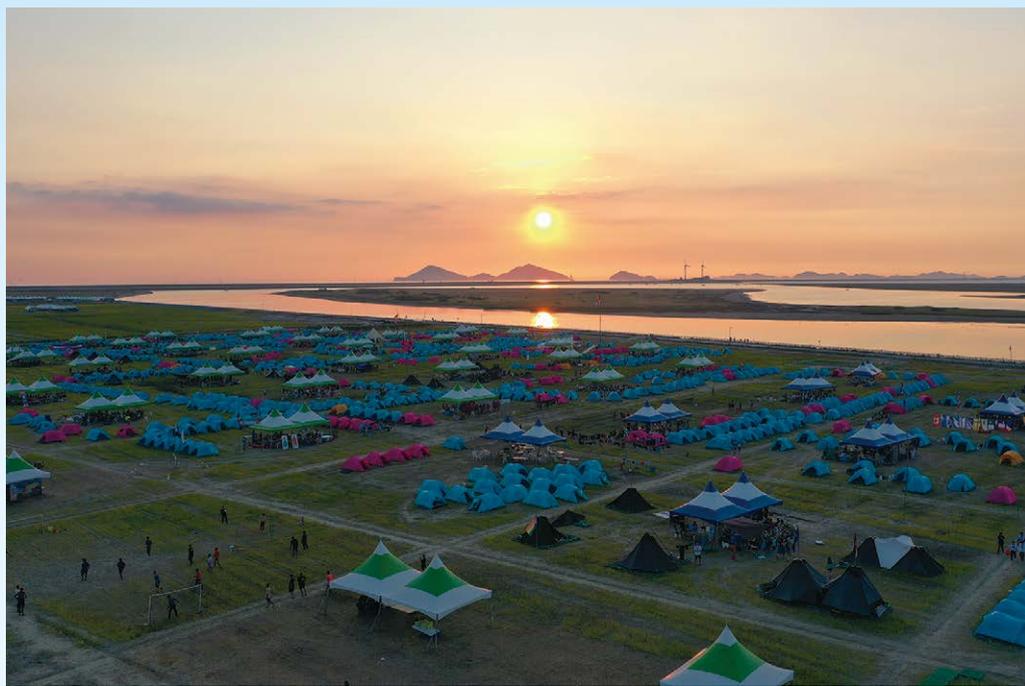


キャンプライフ

The Campsite Life

캠핑장의 생활

生活エリアは4つのハブ、18のサブキャンプで構成され、各サブキャンプにはさまざまな国のスカウトたち、約2,000人が生活しました。台風回避のため、全ての参加者が会場を移動することになりましたが、自国の文化や料理、グッズの交換（スワップ）などを通じて交流を図り、海外のスカウトと生活するという貴重な体験をしました。夏の夜にキャンプの明かりを灯しながら語り合い、笑い合う時間はスカウトたちの良き思い出になったことでしょう。





日本派遣団の移動先である忠清北道の救仁寺。



日本からの参加者にはネッカチーフが2枚配られています。富士山や桜が描かれている日本のネッカチーフは特に大人気で、ネッカチーフやバッジなど、皆思い思いに海外のスカウトと交換し、大切なジャンボリーの思い出の品となりました！



ジャンボリープログラム

On- and Off-site Programs

영내·외 프로그램

場内・場外ともに、普段の活動では体験できないようなアクティビティから馴染みのあるものまで、さまざまなプログラムが行われました。スカウトたちはバスで移動し、全羅北道の各都市を訪問し、各地のプロ



グラムとして、韓国の民族衣装体験、キムチ作り体験、VR体験、水上アスレチックやスポーツなど、大会会場周辺の会場内外および移動先の忠清北道で現地ならではの魅力あふれるプログラムに参加しました。



信仰奨励特別編

信仰奨励

Faith and Beliefs



スカウトと世界の宗教

信仰奨励小委員会 飯盛 安信

世界スカウト機構には、世界の宗教連合というグループの中で、キリスト教（プロテスタント、カトリック、ギリシャ正教）、イスラム教、ユダヤ教、仏教、ヒンドゥ教（シク教）など世界の人口の77%もの人が信仰している5大宗教が所属し、信仰奨励や諸宗教間の対話の促進などの活動をしています。

今大会では、宗教・信仰奨励のエリアが「Inter Religious Faith & Beliefs」という名称となり、それぞれが信仰する宗教だけでなく、異なる宗教間の中での学び・プログラムとなるように準備されていました。上記の他、韓国のウォン仏教とヴァンガード（旧：末日聖徒イエス・キリスト教会）が加わった9つの教宗派がブースを出展していました。

ブースで各宗教の歴史や教えを紹介、鐘をついたり太鼓を叩いたり、木片の魚にコテで模様を描いたり、塗り絵をしたり、板を切って印の形のペンダントを作ったり、瞑想して祈りを短冊にして天井からぶら下げたり、参加スカウトがより楽

しめるように工夫を凝らしていました。

各ブースでは小規模な宗教儀礼として、毎日の読経や礼拝なども行われていました。大人数での宗教儀礼が行えるよう共同集会場が設けられ、数百人規模の集会を各宗派で時間予約をして利用していました。

8月6日は大会における信仰奨励の集いが各教宗派で行われ、カトリックも2,000人程のスカウトと指導者が集まり、人数の多さだけでなく、ミサに対する熱気に感動しました。

ミサは韓国の司教はじめ世界各国の司祭が進行し、お祈りは自国の言葉で行われました。戦争をなくし平和な世界への祈りと今大会や次回ポーランド大会への祈りを行いました。ミサが終わりに差し掛かると、ともに腕を頭の上で揺らし、大きなうねりのように神を賛美する歌が大合唱となりました。これには多くの司祭たちも驚き、この喜びに満ちたひとときを共有しました。まさに神を礼拝し、賛美するとはこのことなのだと思感させられました。

文化交流の日

Cultural Exchange Day

문화교류 프로그램

ジャンボリーでは、自国の食事や文化を参加隊それぞれが準備して体験する文化交流の日があります。



世界のスカウト

Scouting around the world

세계 스카우트

各国派遣団の大きさはまちまちで、何百人、何千人と来ている国もあれば、スカウトと指導者で10数人という国もあります。ジャンボリー会場には、人数や文化の違い、国を超えた出会いがありました。



閉会式

Closing Ceremony
& K-POP Concert

폐회식

一度、会場を離れた各国派遣団がソウルのスタジアムに再集結、ジャンボリーの閉会式が行われました。次回開催国のポーランドへ世界スカウト旗が手渡された他、雨が降る中でのK-POPコンサートに会場は大いに盛り上がり、最後は夜空にあがる花火を目に焼き付けました。



大会と派遣団を支えてくれたIST

ジャンボリーでは、IST (International Service Team) と呼ばれる運営スタッフが参加し、サブキャンプでの生活や会場内での交通安全、スカウトが参加するプログラム支援などに携わります。今大会では18歳以上の世界中のスカウト・成人指導者、約1万人が世界中から集まり、大会の運営を支えてくれました。日本からは145人が参加し、そのうちの約9割が18歳のベンチャースカウトとローバースカウト年代でした。

日本派遣団として、若い年代のISTが例年以上に多い大会でしたが、ジャンボリーに参加するスカウトのために支えてくれました。また、ジャンボリー期間中の会場移動という事態においても、互いに協力し合いながら、行動をとる日本派遣団に対しても、多くの手を差し伸べてくれました。「あの時に感じたこと、経験したことを後輩のスカウトにもつないでいきたい」というISTの皆さんの気持ちは、国内外のスカウトに伝わっています。皆さん、本当にありがとうございました。



第26回世界スカウトジャンボリー

今回の開催国は、バルト海に面する東欧の国、ポーランド。北部の都市グダニスクにあるソビエシェボ島をキャンプエリアとして、「勇敢」というテーマをプログラムの中心に据えること、期間中のフレンドシップデイの祝典を通じてスカウティング120周年を祝うことが計画されています。

今回、参加した方・参加できなかった方、4年後に参加できる年代となっているスカウト、これまで世界のスカウト行事に参加する機会が無かった方も、世界のスカウト仲間とともに過ごす貴重な時間を体感してください。

期間：2027年7月30日(金)から8月8日(日) / 場所：ポーランド共和国 グダニスク ソビエシェボ島

<https://www.jamboree2027.org/>



POLAND 2027

World Scout
26th Jamboree
Scout Mondial



Photo by: Ryan Ner / Jaron Zopff / Jean-Pierre POUTEAU / Kamil Jasinski / Telmo Domingues / Telmo Domingues / ALESSIA MURATORE / Emma Siekkinen / Jeroen Appel / Joel Herrlin / Enrique Leon / Aleaxander Rydberg / NUNO PERESTRELO / Jonathan Law Yan Lun / Kevin A Shaw / Victor Ortega / PARAM TANNA / WSB Inc. / 日本派遣団参加隊 / SAJ

日本派遣団協力(順不同)：株式会社モンベル / ミズノ株式会社 / 株式会社 JTB

ニッポン全国 元気団 紹介

佐賀県連盟 有田第1団

佐賀県西部、長崎県に接する有田町は人口約19,000人ほど、日本を代表する陶磁器「有田焼」の産地として知られている。そんな有田町で元気に活動しているのが有田第1団だ。今年発足より60年を迎える同団の活動の様子や指導者の皆さんのお考えを聞いてみた。



Scouting with Boys!!

黒髪山にスカウトの声がこだまする！

黒髪山は佐賀県武雄市と有田町の境に位置する標高516mの山で、九州百名山にも選ばれている。4月の第一日曜日に山開きが行われるが、有田第1団のスカウトも毎年この行事に参加。ビーバースカウトをはじめ全員でその頂を目指し、心地よい春を迎えた山には元気なスカウトの声がこだまする。しんどい坂道を登り切り、見晴らしの良い山頂でみんなと一緒に食べる昼食は格別だ。

その他にも有田第1団では毎年恒例の団行事の機会を多くもっている。町の「陶器市」にあわせたユニセフ募金活動、田植えや稲刈りの体験、作ったもち米でのもちつき、毎年8月15日の終戦記

念日には善福院というお寺で平和を祈るなど、その内容も多彩だ。

また、町の公園敷地内に約5,000㎡の用地を借り受け、スカウトハウスを設置し、自団専用のキャンプ場としている。これも日頃より地域に根差した活動をしているからといえよう。団の加盟員数は50人ほどで毎年推移している。男子スカウトのみが活動し、対象人口が約1,300人ほどの町であるという点を考慮すると、その組織率の高さは特筆すべきであろう。



有田第1団の活動を聞いてみた

そんな有田第1団の隊長のみなさんに話を伺った。団のキャンプ場を中心にどんぐり工作をしたり、筏(いかだ)を池に浮かべたり楽しい活動を展開しているビーバー隊。末永隊長は「楽しい遊びの中でも人の話にちゃんと耳を傾けるということを大事にしています」と語る。地域の史跡を巡り、その歴史に触れるなどカブ隊のプログラムも楽しいものだ。「すなおなカブが多いですね」と川浪隊長は穏やかに笑った。団のキャンプ場に3泊の野営をし、そこから学校に通うというユニークな試みをしているボーイ隊。「スカウトの進級意欲が高いんです。25WSJには7人のスカウトが参加します」そう語るのは馬



場隊長。パイオニアリングにチャレンジしたい！など、スカウト自身の発信がある班長会議も充実しているという。ベンチャー隊では長崎の五島列島での自転車旅行など、アクティブな活動を展開している。「もっともっと意欲的になってほしい」と語る永石隊長の目は優しく、スカウトとの信頼関係が深いことは容易に推察できる。また、

高校を卒業して有田町を離れたスカウトも、帰省の折には後進の指導に積極的に奉仕するという。そういう受け皿も絶えず準備している。

また、有田第1団ではホームページにて各隊の年間プログラムを公開している。これは広く活動を知ってもらおうという点で参考になると思われる。

指導者訓練を大切にしよう

「指導者訓練を大切にしよう」というのが有田第1団発足時の荒木隊長の教えだ。当時スカウトだった原口副団委員長はそういう団の伝統を話してくれた。そして、子どもが減っているからというのは言い訳にすぎない、本当にスカウティングの楽しさを子どもに伝えることができているだろうか、との示唆をされた。

まずは、大人が自己研鑽に励み変わっていく、そして自身がこの運動に

喜びや楽しみを見出すことによってスカウトたちを導いていこう、それが自身のさらなる成長にもなるということだ。今回、いろいろお話を伺っている中で、隊長の皆さんがスカウティングを楽しんでいることが強く感じられた。団の元気の根源はこんなところにあるのかもしれない。

成人がどうスカウティングに関わっていくかについて、原口副団委員長が少し笑みをこぼされながら語っていたフレーズは『Scouting with Boys!!』



団のHPはこちら



よりよい「体験活動」を、 より多くの子どもたちにとどけよう！

—スカウティングが取り組む地域課題と連携について—

ボーイスカウト日本連盟の中長期計画では、2032年までにこれまで以上に「地域に根差したスカウティング」を目指し、さらには「全ての人に開かれたスカウティング」を展開していくこととされています。その施策を具現化する一つとして、「地域の青少年に体験活動を提供する取り組み」を挙げています。2020年度から取り組んでいる「ボーイスカウトとあそぼう！ワクワク自然体験あそび」も、この事業の一つとして積極的に全国で展開を進めています。

出口の見えなかったコロナ禍において、子どもたちの思う存分に外で友だちと一緒に遊びたいというニーズに対して、日本連盟では「自然体験活動」を地域に提供することを推奨し、展開してきました。しかし、そもそも「体験活動」とは、「自然体験」に限ったものではありません。特定の「体験」を意図的、計画的に提供する活動を指すものであり、2013年1月に中央教育審議会から答申された「今後の青少年の体験活動の推進について」によれば、体験活動は、お手伝いや地域の年中行事などの「生活・文化体験活動」、登山やキャンプ、星空・動植物観察などの「自然体験活動」、ボランティア活動やインターンシップなどの「社会体験活動」の3つに分類されます。そして、このような体験活動に参加したという経験を持つ子どもたちは年々減少しているといわれており、加えて、その保護者層でも子どもの頃に体験活動に参加をした機会が少ないという指摘もあります。「体験活動」は、1990年代から社会で使われるようになった言葉であり、当時の青少年教育行政の中心的課題として取り上げられました。すなわち、この頃から体験を意図的に行う活動が必要であったということが窺えます。

自然体験活動といえば、自然に親しみ、自然をより深く理解していくことが

期待されますが、体験活動で得られるものはこれだけに留まりません。活動を行うプロセスでグループの仲間と体験することで、ともに学ぶこと、人の関わりを学ぶこともできます。また、活動がキャンプで行われるのであれば、規則正しく生活をするという体験を通じての学びもあり、子どもたちの成長に有用なものがたくさんあります。

スカウティングで行われる活動は、すべてが体験活動であり、年間を通じて行われるものにはさまざまなものがあります。冒頭の「地域の青少年に体験活動を提供する取り組み」は、コロナ禍では「自然体験活動」を前面に取り組んできました。今後は、体験活動を広く柔軟にとらえて、いろいろな形の活動を地域で提供していくことができるのではないのでしょうか。それは「特別」な体験を提供するのではなく、私たちが普段から行っているスカウト活動そのものを提供することです。通常の隊集会に参加ができる機会や場を持つことによって、「ボーイスカウトの活動に参加すると、楽しくいろいろなことが体験できる」といった認識を社会に広げることで、もっと多くの参加が得られるはずです。そのためにも「体験活動＝組織拡充のための特別な活動」とせずに、「体験活動＝スカウティングそのもの」として、地域の青少年に体験活動を提供することが、地域貢献の一つの形であるという視点を持ち、結果として、スカウティングが地域に根差したものになるよう取り組んでいきましょう。



■ 体験活動を地域で積極的に展開するために活用できるもの

「体験の風をおこそう」

日本連盟では、青少年運動などに関わる団体とともに「体験の風をおこそう」運動を展開しています。各団での活動を登録することで、広報の一助になるとともに、活動に利用できる物品の提供なども得られます。トップページの「一緒に体験の風をおこそう」よりアクセスしてください。

🔍 体験の風をおこそう



「そとチャレラリー」

Web ページから「そとチャレラリー」で詳細をご紹介します。

こちらは、自然体験がキーになりますが、コロナ禍で縮小した「リアルな体験」の機会を全国で充実させていこうとするもので、国立青少年教育振興機構、ガールスカウトと連携し、「お外でリアル体験！」をコンセプトとした懸賞付きのスタンプラリー企画となります。「ボーイスカウトとあそぼう！ワクワク自然体験あそび」の参加者も応募できますので、事業を企画する折に、ぜひ活用してください。



ボーイスカウト×ユニクロ×UNHCR

難民支援衣料回収プロジェクト

このプロジェクトではスカウトへ難民について「知る」機会を提供し、
できることから「行動」してもらい、住んでいる地域に「広げて」います。

衣料回収プロジェクト
「秋のキャンペーン」

8月1日～10月31日



現在、秋のキャンペーン期間を実施中です。ぜひ皆さまの団・隊でもお取り組みをお願いいたします。プロジェクトの詳細および申し込みは WEB ページから

https://www.scout.or.jp/member/support_for_refugees/

UNHCR の民間連携担当である櫻井有希様にお話を伺ったところ、難民キャンプでは特に子ども服が不足しているのが現地で大変喜ばれているとのこと。地域の方々とともに回収した衣料が役に立ち、現地の様子を教えてもらうことで私たちの務めが果たされていることを実感しました。

■ ユース難民アートコンテスト開催中

6月15日～9月30日まで

難民を身近な問題に感じてもらうことを目的に UNHCR が立ち上げた本企画。3回目となる本年はユニクロが共催することにより、選ばれた5作品が Tシャツ化されて UNHCR の公式サイトと国内外の一部ユニクロ店舗で販売されます。ぜひコンテストにもご参加ください。



■ 活動事例を紹介！

長崎第13団では、ユニクロ店舗と調整のうえで、子ども視点の告知チラシを作成し、近隣の幼稚園、小学校などに協力を依頼し、たくさん子ども服が回収できました。地域の中でスカウト活動をしっかりと伝える良い事例になりました。



トピックス

難民問題について学ぶ オンライン学習会を開催！！

7月26日、難民問題について国連 UNHCR 協会の大沼耕平様にお話しいただきました。詳しくは難民支援衣料回収プロジェクトの Web ページをご覧ください。

創立100周年記念史『日本ボーイスカウト運動史Ⅲ』（略称：運動史Ⅲ）と『より良い世界の創造を目指して～日本ボーイスカウト運動100年史～下』（略称：100年史）の発刊について

ボーイスカウト日本連盟創立100周年を記念して、運動史Ⅲと100年史・下巻を編纂しています。当初、発行予定を2023（令和5）年秋季としていましたが、少し遅れて2024年2月完成を目標に鋭意作業を進めています。

【運動史Ⅲ】

- ① 既刊『日本ボーイスカウト運動史（50年史）』、『日本ボーイスカウト運動史Ⅱ（80年史）』に続く81年から100周年までの歩みを詳述（100周年に及ぶ資料編を含む）
- ② 冒頭にボーイスカウト運動の創始者の生誕から世界的創立、日本への伝播、発展について写真が語る運動史として秘蔵写真によるグラビアページ（48ページ）
- ③ 全都道府県連盟の今日を築いた方々の系譜、全加盟団の発団の系譜を掲載
- ④ 仕様：A4判上製本、本文384ページ予定、化粧箱入り

【100年史・下巻】

2022年4月13日発刊の「上巻」に続き、50周年以降の

1973（昭和48）年度から100周年の2022（令和4）年度までの主な出来事を読み物として詳述

第9章 任意団体と財団法人との一体化／第10章 日本連盟結成60周年を祝う／第11章「おきて」の改正／第12章 新ユニフォームへ改定／第13章 全部門への女子の加入／第14章 教育本部の機構改革／第15章 日本連盟組織・運営体制の改編／第16章 公益財団法人への移行と第23回世界スカウトジャンボリー／第17章 日本連盟結成100周年を目指して／展望

仕様：四六判、本文304ページ予定

編纂：100周年記念史編纂委員会

委員長 鈴木 國夫（先達・顧問）

いずれも完全予約販売です。価格・送料等、詳細が決まり次第、改めて本誌および日本連盟 Web ページ等でご案内します。



ボーイスカウトの 国際事業

スカウト運動の魅力の一つは国際性です。今夏開催された第25回世界スカウトジャンボリーでも日本のスカウトたちはさまざまな国のスカウトとの交流を楽しみました。その他、日本連盟では個人またはグループの海外派遣事業を実施しています。今回は国際事業の一部の紹介と次ページ以降、海外でスカウト体験をしてきたスカウトたちの声を紹介します。

国際事業の紹介

■ カンダーシュテーク夏季野営スタッフ派遣

スイスのカンダーシュテーク国際スカウトセンターでは、毎年各種のプログラムを提供しています。特に夏には夏季野営のスタッフを各国から募集しており、スタッフは一定期間訓練を受けた後、プログラム、ゲストサービス等の諸業務を担当します。

この派遣の参加者は、キャンプに参加する多くの国のスカウトおよび指導者と交流することによって国際親善と理解を深める貴重な体験を積むことができます。また、アルプスでの登山や野外活動を体験し、技能の向上を目指すこともできます。

参加者は、6月から9月までの派遣期間前後に1週間程度、スイス国内や周辺国の訪問を計画することができます。

KISC CELEBRATES 100 YEARS!



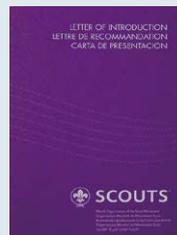
■ 国際紹介状の発給

国際紹介状とは日本連盟が発行する加盟登録証の英語版になります。国際紹介状は世界スカウト機構が定める世界共通のカードで、各国のスカウト連盟はその国の加盟員が海外に渡航する際に発給します。

国際紹介状がないと活動ができないわけではありませんが、国際紹介状なしで渡

航し、万一活動中に事故や事件に巻き込まれた場合には、相手国連盟に多大な迷惑をかけることとなりますので、海外でスカウト活動をする場合は、必ず発給を受けてください。

詳しい内容や発行の方法は右記 QR コードまたは Web ページより「国際紹介状」をご覧ください。



国際紹介状

■ スカウト特別海外派遣

富士スカウト章を取得したスカウトの中から応募のあった者を選考の上、本人が独自に企画した社会性のあるテーマにより定めた国、または地域に派遣し、プロジ

ェクトを実施するものです。派遣員は、これまでのスカウト活動を通じて体得した知識・技能・精神を一層高めると共に、海外スカウト等との親善交歓により国際理解と

友情を深め、テーマに関する理解・経験を深めることを目的にプロジェクトを実施します。

JOTA-JOTI

毎年10月第3金曜日から日曜日に、アマチュア無線とインターネットを活用したプログラムが展開され、世界中のスカウトが参加する JOTA (ジャンボリー・オン・ジ・エア)、JOTI (ジャンボリー・オン・ジ・インターネット) が開催されます。

JOTA-JOTI 開催に向けた国内でのプログラム準備の様子をご紹介します。

■ JOTA

JOTA-JOTI Plaza と全国に開設される「アマチュア無線の体験」会場

日本連盟と地域の方々で運営する JOTA-JOTI Plaza は、東京都杉並区、東京都豊島区、愛知県名古屋、大阪府池田市の4か所で開催されます。また各地の個人やグループのスカウト無線局が準備を進めています。

同じ週末、アマチュア無線の資格を持たない者を対象にアマチュア無線の体験ができるイベント「体験運用の日」が CQ 出版社の主催で開催されます。体験運用の楽しめる会場が地域ボランティアにより全国各地に開設される予定です。この会場から JOTA に参加することも可能です。詳しい会場情報は月刊誌 CQ ham radio やホームページでご確認いただけます。

カンダーシュテーク 夏季野営スタッフ派遣を体験して

愛知連盟 名古屋第8団 佐藤 成

私は今(8月頭)カンダーシュテークインターナショナルスカウトセンター、通称 KISC でシヨートタムスタッフとして働いており、キャンプサイトチームに所属し、キャンプサイトのチェックイン、チェックアウト、備品や設備の管理、整備といった幅広い仕事を行なっています。

仕事や仲間たちとの日々を楽しみながら毎日を送っていますが、派遣前はもちろん不安もありました。実は私自身、今回の派遣が初めてのヨーロッパ滞在であり、海外の実情に精通しているとは言えず、KISC にはヨーロッパだけでなく世界各国から様々な考え方を持った人々が集まることから、人種の違いという点においてかなり大きな不安を持っていましたが、その不安は杞憂に終わりました。ここは KISC であり、集まってくる人々は文化や常

識が違って、皆スカウトだからです。日々のスカウト活動の形に違いはあれど、皆心には他の人々を助けるという、奉仕の精神が宿っていることを感じました。

そして、何より面白い点は異なる国から来た異なる考えを持つ何千人という人々が、スカウトという一つのつながりを持っていること。このたった一つの繋がりが私たちを KISC で出会わせてくれたことを考えると自身の今までのスカウト活動が国際性という大きな意味を持っていたことに気がつきました。

このように KISC で得られる体験は数多く存在します。ぜひとも自分の考えが変わるような出会いを求め、スタッフとして、またはゲストとして KISC にお越しください。



私のスカウト体験記 ～国際紹介状を携帯した海外でのスカウト活動～

東京連盟 世田谷第10団 枝迫 雄大

国際紹介状を初めて受け取ったのは高校1年生の夏、日本連盟主催の海外派遣に参加したときでした。入国の審査に際し、パスポートに紹介状を挟んで審査官に渡しました。お守りにする気持ちで取ったその行動は習慣になり今も続いています。大学でオーストラリアへの留学が決まった際には、現地でスカウトの友人と再会する予定ができ、制服を着たい、と自ら紹介状の発給を申請しました。その後、

偶然の出会いから現地の団活動に指導者として参加することになったのですが、その際は紹介状が身分を保証してくれたことで、初対面の保護者やリーダーにも公式に認められて活動ができました。

夜、テントのすぐ横でカンガルーが草を食む音を聞いたのも、都市から離れた森で満点の星空と南十字星を見上げたことも、海外でのスカウト活動ができたからこそその良い体験でした。

体験運用会場の探し方

CQ ham radio

「体験運用の日」体験会場の案内等

<https://ham.cqpub.co.jp>



外のスカウトや指導者と連絡先を直接交換した人も多いでしょう。参加した皆さんは、その海外のスカウトたちに連絡をとって、JOTI の機会に、ビデオチャットで再会してはいかがでしょうか。

「鉄は熱いうちに打て」と言いますが、友情を固いものにするためにも10月の世界規模で行われるデジタルジャンボリーは絶好の機会です。

🔍 JOTA-JOTI 2023

初めて JOTI に参加する隊の基本的なノウハウとして公開した、オンライン講習会とマニュアルは引き続き Web ページで閲覧およびダウンロードが可能です。



JOTI

第25回世界スカウトジャンボリーへは、日本からも多くのスカウトが参加して、海

スカウト特別海外派遣

SDGs for Scouts ~ 全生物が共棲可能な環境づくりに向け ~

兵庫連盟 西宮第13団 森下 結友

私がこの派遣を志したのは、私自身の富士プロジェクトがきっかけでした。SDGsをテーマに、災害に関する調査を続けてきた私は、この機会を活用して海外の災害現場へと赴き、さらに災害についての知見を深めようと思いました。そこで目を付けたのが、2019年に発生した、オーストラリアでの森林火災でした。

現地では森林火災関連の取り組みが中心でした。被災者の方々との交流、記念施設の見学、大学の研究者との意見交換、被災現場の視察など、自分の目でその現状を確かめました。それらを日本へと持ち帰り、自分なりに考察を深め、その集大成として、一冊の報告書をまとめあげました。

もちろん、災害の調査だけを行ったわけではありません。ホームステイの中での異文化交流、現地のスカウト活動への参加、オースト

リアの歴史探究といった活動も行いました。まさに、「スカウティングの学習旅行」と形容するのがぴったりな3週間となりました。

現地の方々の親切さ、スカウト活動の社会的評価の高さは非常に印象に残っています。制服を着用していれば、どこに行っても手厚いサポートをいただけました。

スカウト活動が受ける地元の評価を目の当たりにし、また災害についての知識が増えたことで、帰国後、将来世代を支える立場としての社会的責任が、より一層自分の中に根付いたような気がしています。海外での学習を企画から報告まですべて自分が主体的にやることで、自らの成長の大きな糧となることは間違いありません。富士スカウトならぜひ、一度応募を検討してみたいと思います。



人が守り受け継いだ自然と文化 ~ 逆境をチャンスに変えるためのカナダ派遣 ~

東京連盟 目黒第1団 成澤 椿

世界に誇る日本の世界遺産。自然が育んだ絶景や先人から受け継がれてきた数々の遺産に感銘を受けると同時に、守り紡いできた人々の想いに引き込まれました。その想いの原動力を学びたいという思いから、環境保全を積極的に取り組んでいるカナダ横断へと私を突き動かしました。植民地時代の英仏文化が街並みや建造物として色濃く残る「ケベック旧市街の歴史地区」では、過去の争いと困難から目を背けずに受け止め、異なる文化の融合で生まれた歴史を色褪せることなく繋ぐ人々の想いに触れました。また、バンフ国立公園では、試行錯誤を繰り返しながら自然に寄り添い続け、変わらぬ景観を後世に残そうとする徹底的な取り組みを身をもって学びました。今回の派遣で、生涯忘れないであろう絶景の地に立ち、沢山の出会いがありました。それはテレビや雑誌では伝わらない、人々の言葉や想いに触れる機会となりました。その土地に根差す人々の想いがあってこそ文化や



伝統は守られ、その意義を問いかけ続ける想いの連鎖。ボーイスカウト活動の中で、寄り添い支えて下さった指導者と先輩スカウトから授かった経験と学びが私の原動力となったように、これからを紡いでいくスカウトたちの原動力になれる存在でありたいという私の意識をも変えました。誰もがそれぞれ持つ個性や力を伸ばし活かせるボーイスカウトという舞台で、新たな価値観や人との繋がりへ出会う一歩を踏み出してほしいと願っています。



組織活性化戦略セミナー

「組織活性化戦略セミナー」は組織の活性化に向けて、組織拡充、広報、中途退団抑止に関するテーマで、県連盟からの要請に基づき開催するセミナーです。令和2年度に「スカウト運動活性化戦略セミナー」としてオンラインを中心とする形態でスタートし、令和4年度からは「組織活性化戦略セミナー」と名称を変更して対面開催で実施をしています。令和4年度までに21県連盟・34会場で約1,800人の皆さまに参加をいただきました。令和5年度は11県連盟・11会場で開催をする計画です。



令和4年度開催実績

7県連盟275人に参加をいただきました。内容は「全団調査の結果について」、「組織拡充について」、「広報について」、「グループディスカッション」の4ステップで構成し、組織拡充委員会、広報委員会、社会連携小委員会、特命コミッショナーが担当をいたしました。

県連盟	開催日	会場
奈良県連盟	令和4年6月5日	大和郡山市市民交流館
神奈川連盟	令和4年7月2日	神奈川近代文学館
和歌山連盟	令和4年7月3日	和歌山県民文化会館
静岡県連盟	令和4年8月21日	静岡県青少年会館
岩手連盟	令和4年9月10日	岩手県青少年会館
群馬県連盟	令和4年11月20日	G メッセ群馬
愛知連盟	令和5年1月22日	邦和セミナープラザ

令和5年度開催予定

初開催5県連盟を含む11県連盟からエントリーがあり、順次開催をしています。

今年度は、フルオーダー制として事前に県連盟とセミナーの内容の打合せを行い、県連盟の希望に沿う内容構成で実施をし、年度末にはその効果のヒアリングをするというスタイルとしています。

参加者の声

愛媛県生涯学習センターで6月10日に開催されたセミナーの参加者の声を紹介합니다。

- 自分たちの団の課題が明確にわかった。
- 保護者との関わりを見直すきっかけになった。
- 団委員の役割が大事だと思った。
- SNSの活用はあまり意識していなかった。
- 発想の転換。保護者にSNS投稿をお願いしたい。
- 情報発信の重要性に気が付いた。
- リーダー不足の役に立ちそう。
- 動かなければいけないという意識改革になった。
- 何となく感じていたことが、データではっきりと突き付けられた。
- 解決努力への勢いがついた。



全国大会で、AIS ポリシーについて セミナーを開催しました!!

岡山県で開催された2023年度の全国大会のテーマ別集会にて、「隊長が安心して活動できるための支援とは」と題したセミナーを AIS 委員会とディレクターチームで開催しました。

AIS 委員会の役割を説明した後、参加者の皆さんで「隊指導者として安心できたこと、不安だったこと」や「団指導者としての隊指導者への任務中の支援」についてディスカッションしていただき、AIS ポリシーの考え方や重要性について参加者の皆さんと共に考える機会にしました。



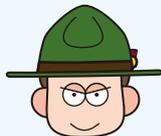
■ ディスカッションされた内容 [抜粋]

隊指導者グループ

「活動において
困った時や不安に感じた時とは
どういう時ですか？」

- 必要な情報が隊指導者に下りてこない
- 役割が不明確（何をするのか分からない）
- スカウトの参加状況がよくない
- 団委員も少なく、十分な支援がない
- 相談できる人がいない

隊指導者のみなさんは、たくさんの
悩みを抱えて活動してるんですね……



クロちゃん

団指導者グループ

「隊指導者の
不安や悩みに対しては
どのように対応していますか？」

- 保護者の方に、お手伝いからいきなり指導者と言わないように配慮する
- 指導者からの相談には、出来るだけ応じるようになっている
- 指導者のモチベーションを保つようにする
- 指導者も個人の成長があることの話をする

団指導者の人たちも支援を
頑張っているのよね



スエさん

まだまだ団としては隊長を応援できて
いないんだろうなあ。解決するには
どうしたらいいのだろう……



シローさん

AIS 委員会は、
このような課題に対して、
次の様な事業を
展開していきます！



トミーさん

団委員会版

隊長、隊指導者が
現場で活動しやすくなる
「成人のライフサイクル」
活用のヒント

研修が受けやすくなる

現代的手法を取り入れた
トレーニングの開発

近日公開!

日本連盟 AIS
ポリシーの策定

人材発掘のヒント

地域の成人との協同





ソングフェロー 全国大会テーマ集会

♪ 歌声が広がるスカウト活動 ♪

歌を歌うことができない日々が続いていた時でも、ソングフェローたちはオンラインを活用したソング研修会を開催したり、歌わなくてもできること（曲想について語り合う等）をしたり、スカウト活動でのソングの大切さを伝え続けてきました。今回のテーマ集会では、前半はそのような実例の紹介と、歌えるようになった状況下において、今後、どのように伝えていくのかを参加者同士で意見交換を行いました。そして、後半は実際の伝え方を、スカウトソングの分類に分けて体験しました。

“歌「を」教える”のではなく、 “歌「で」教える”

スカウトソングを歌うことで、B-Pスピリッツをスカウトに伝えることができ、それが、「ちかい」と「おきて」の実践に繋がります。まずは指導者がスカウトソングを曲想までしっかり理解して活動に取り入れ、『歌声が広がるスカウト活動』を目指しましょう。



ソングフェロー
小笠原 妙香さん

“まずは、指導者が歌わないと スカウトも歌いません”

スカウトソングは単なる歌ではなく歌で伝える「ちかい」と「おきて」スカウト活動そのものです。先達の想いをくみ取って、歌詞の意味をよく読み取って、活動しながら自然と歌が出てくるように。上手い下手は関係なくとにかく歌ってほしいと思います。みなさん大いに歌いましょう。



ソングフェロー
田中 明美さん

今回、全国大会に集結した ソングフェローの皆さん

静岡県連盟 浜松第12団
小笠原 妙香さん

東京連盟 品川第6団
大井 尚子さん

神奈川連盟 横浜第11団
田中 明美さん

福井連盟 福井第7団
酒井 一成さん

長崎県連盟 長崎第8団
松尾 澄子さん

長崎県連盟 長崎第8団
辻 恵子さん

特別出演

元スカウトソング特別委員会委員長
愛知連盟 岡崎第1団
石原 徹さん

ソングフェローとは

スカウトソング特別委員会主管の「スカウトソングワークショップ」を履修後、奉仕実績を提出して修了認定された者（過去、2回開催。2023年7月現在の在籍者15人）



ボーイスカウト日本連盟創立100周年記念ソング

ボーイスカウト
～いま 高き峰へ～

全国のスカウト関係者から「ことば」を集めて、弓削田健介氏が作詞作曲した、ボーイスカウト日本連盟創立100周年を記念して制作された歌です。100年後、誰もが歌える歌になっているよう、みんなで歌い継いでいきましょう。

<https://100th.scout.or.jp/song/>



ローカルホットライン

Local Hot Line

団・地区・都道府県連盟だよ

- … 団
- ☒ … 地区
- … 都道府県連盟
- ◇ … その他

兵庫 □ 新聞掲載

姫路第6団 団委員長 苦瓜 一夫

我が姫路第6団のスカウト3人が今夏、大韓民国で開催される「第25回世界スカウトジャンボリー」に参加する事に関し『神戸新聞』姫路支社の取材を受け、7月15日(土)の新聞に掲載していただきました。



世界スカウトジャンボリーに参加する姫路第6団の(左から)栗原康介さん、柴垣蒼太さん、今田聡太郎さん(姫路市内)

ボーイスカウトの世界大会 姫路第6団から3人参加

来月、韓国「日本の文化を広めたい」8月1日から韓国中部のセマンゲムで開催する、ボーイスカウトの世界大会「第25回世界スカウトジャンボリー」に、姫路市内最大規模の姫路第6団からは3人が参加する。姫路商業高校2年の柴垣蒼太さん(17)、朝日中学校3年の今田聡太郎さん(14)、山陽中学校3年の栗原康介さん(14)。3人は「日本の文化を積極的に広めたい」と意気込む。

同大会は4年に1度、肌の色や文化の異なる参加者たちが同じ場所に集い、キヤンプを通して交流を深める催し。第1回大会は、ボーイスカウト発祥の地、英国で開かれた。日本では1971年(静岡県富士宮市、2015年(山口市)に開かれた。今回は12日まで。

3人は日本ボーイスカウト兵庫連盟などから実績や面接で評価され、72人の県派遣メンバーの一員に選ばれた。姫路市内からは、ほかに別の団の4人も参加する。

柴垣さんは「得意の習字で漢字を広めたい」と笑顔。今田さんは、「六面立体パズルで海外の人と交流したい」、栗原さんは「けん玉の特技で、みんなを驚かせたい」と力を込めた。

(成 将希)

神戸新聞(2023年7月15日掲載)

東京 □ 60年前のギリシャでの世界ジャンボリー

豊島第1団 団委員長 藤森 忠雄

ちょうど60年前の1963年(昭和38年)にギリシャで行われた第11回世界ジャンボリーに派遣された90人のスカウトのうち6人が7月に集まりました。今回集まった6人のうちたまたま3人が当時ジャンボリーの様子を知らせる『スカウト誌特別記者』でした。60年前のスカウト向けの雑誌「スカウト」に掲載されたギリシャジャンボリーの当時の記事を紹介します。(昭和38年9月号「スカウト」掲載)



東京 □ 「ウクライナ支援をするポーランド共和国スカウト」交流会(ポーランド共和国大使館訪問)

目黒第15団 ローバースカウト 茂呂 裕梨

4月1日、目黒区(当日 青木区長列席)、目黒区議会の後援を受けて、ポーランドの文化や隣国ウクライナ戦争禍におけるポーランド共和国スカウトの支援活動の大使館からのご講演を受け、ポーランドに対する理解を深めるとともに今後、ポーランドとどのように関わっていけるかを模索するかを地区として計画した。

特に印象的な場面は参加スカウト(ベンチャースカウト、ローバースカウト中心で26人)多くが質問をしていたことであり、内容も戦争に関することだけでなくポーランドの文化や生活についても多くあった。また講演後も積極的にスカウトが質問や話に行っている姿が目立った。ポーランドに対する純粋な興味からの多くの質問に大使館の方に好感を与えられたと考える。その結果、大使館の方から「来年も～」と継続的な交流を示唆する発言があった。今回の交流会を経てポーランドに関心を持っているスカウトが多いように見受けられた。また講演の中で大使館の仕事のひとつが「より多くの

にポーランドを知ってもらうこと」と仰っていたことから、スカウトを中心にフォーラムを開きポーランドに対する理解を深め、スカウトの視点からポーランドの魅力を発信するような活動を実施していきたい。



気象予報と安全 — その空は世界と繋がっている

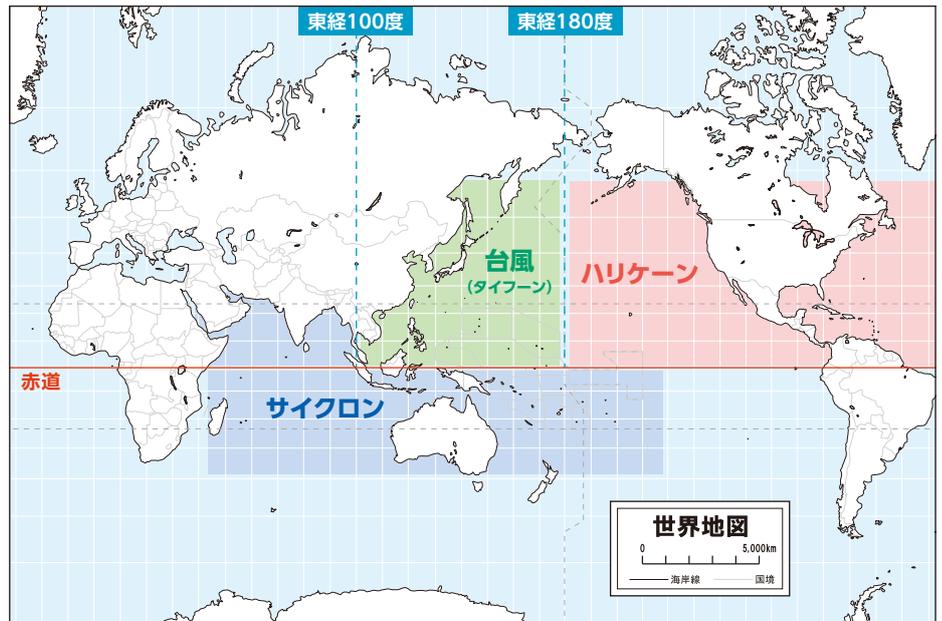
気象状況や天気の詳細を的確に把握することはスカウト活動の安全面から極めて大切なことであり、また、スカウトらの創造力の成長にもつながるものです。今回は、気象現象を世界規模で捉えることが新たな学びにつながるのでは、という観点からのお話です。

「台風」ところ変われば名前も変わる?!

台風 (Typhoon) と同じ熱帯低気圧に、「ハリケーン」や「サイクロン」があることはおなじみだと思います。これは、発生場所でも名前のつき方が分かれるものです。

空に国境はない……から!?

空を動く台風には国境も道路も関係ありません。時に、基準となる境を越えることがあります。そうすると、これまで『ハリケーン』と呼ばれていたものが急に「台風」となったりします。近年では2018年の台風17号は「もともとハリケーンだった台風」で、2019年の台風22号は「インド洋に行ってしまったのでサイクロンになってしまった台風」でした。



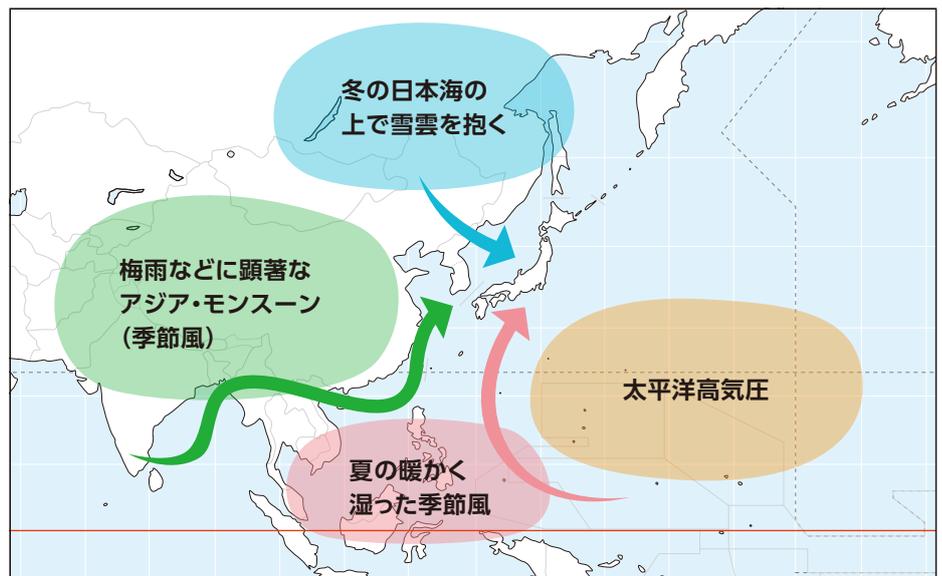
その雨は、どこから来た水?!

9月は台風シーズン。その他にも6・7月は梅雨の大雨があり、冬には日本海側は大雪と、日本列島は一年中、どこかで水が降り続けています。では、活動中に喉を潤すその水は、どこから来たものなのでしょうか。

日本は世界有数の「水大国」!!

巨大なユーラシア大陸の東の端で、かつ、間に日本海という海をはさみ、また南には世界で最も水温が高い南西部太平洋があるという類まれな立地条件で、日本は年中、水が降り注ぐ国となりました。水は、山深い森の地下から湧いて出てくる……のもっと手前の「水の由来」を気にしてみると、ぐっと世界が近く感じられるのではないのでしょうか。

気象への理解を深めることには、野外活動の安全のためだけでなく、そもそも「野外で生きる者」として身につけてお



きたい知恵や教唆、また、目の前のミクロの視点を地球規模のマクロの視点に転換してくれる、大きなチャンスがそこここに溢れています。スカウトハンドブック P.178にあるように空の変化を見るだけで今後の天候の予測も少しはできますが、

加えて、この気象・空はどのくらいの広がりを持つものなのかをスカウトとともに感じることは、気象の本質的な理解に繋がるものと期待します。

企画・監修: 共済委員会

ご支援ありがとうございます

維持会員 (敬称略)

2023年 5~6月度

スカウト運動を財政面からご支援いただいている個人・法人会員の方です。

【秋田】 佐川 芳子
乳井 豊彦
【群馬】 奈良橋 俊宏
林 高行
藤井 春俊
大川 由明

【埼玉】 西山 繁夫
綱島 宗和
板谷 喜代子
村山 至
木村 正幸
山口 仁司
BSさいたま226 育成会

【千葉】 渡辺 順彦
沖田 篤史
BS日野4
【神奈川】 石田剛男
須藤 真司
岡竹 直
【東京】 額谷 征幸
石黒 秀彦
松平 頼昌
今泉 哲也
上森 俊治
諏訪 維理
俵 秀明

【石川】 高村 昌克
【岐阜】 馬淵 雅彦
【静岡】 瀧島 三郎
池谷 千幸
花畑 金亨

戸田 正明
池谷 大輔
【愛知】 佐野 守彦
根木 浩路
伊吹 登
石坂 純一
小林 弘幸
BS長久手1育成会
BS岡崎2中山育成会
BS名古屋111 (株)新美利一鉄工所
【三重】 中山 俊雄

原田 玉恵
【京都】 柏森 隆平
滝川 幸一朗
中島 齊
京都府議会スカウト 振興議員連盟
【兵庫】 南 秀生
南平 榮一
鈴木 武
枝根 秀男
岸上 敏之
松本 輝明

B S 伊丹 2
【和歌山】 田中 章慈
中村 光太郎
【大阪】 高見 篤志郎
片渕 正一
原田 勝次
吉井 晴久
BS枚方9育成会
(有)芝浦照明
【鳥取】 高嶋 壯司
涌島 勉

【岡山】 山田 貞秀
星山 正一
【徳島】 矢野 勝規
【香川】 大須賀 誠
松平 頼昌
【愛媛】 堀田 利知
えひめスカウトクラブ
【福岡】 松岡 泰治
(株)フジクリーン

内山緑地建設(株)
【長崎】 藤田 孝
【日本】 西永 和子

マンスリーサポート 維持会員



5~6月に入会または1年継続された方々です。
毎月1,000円から、クレジットカードでの自動引き落としによる維持会費のお支払いが可能です。

<https://www.scout.or.jp/support/>

【北海道】 寺迫 公裕
下條 俊太郎
【岩手】 小守林 靖一
【宮城】 高山 雅光
【秋田】 吉田 司

【山形】 太田 浩
【栃木】 斎藤 明美
【群馬】 小茂田 岳広
【埼玉】 高橋 義人

【千葉】 児玉 春美
光延 健秀
吉田 耕一
【東京】 星月 一人
本田 誠
山崎 麻子

【岐阜】 矢橋 和秀
【愛知】 澤 朋宏
小林 弘幸
【三重】 松葉 直之
【京都】 井上 義雄

【兵庫】 山本 浩介
【奈良】 佐藤 之雄
山本 優
【大阪】 水戸守 雅之
【鳥取】 中尾 圭介

【岡山】 平井 清志
【日本】 小守林 靖一

SCOUTING デジタル配信しています!

機関誌『スカウティング』のデジタル版(PDF)を、読者の皆さんを対象に配信しています。デジタル版は、文字をコピーできますので、さまざまな資料に、簡単に引用できます。また、タブレット端末などに入れ、いつでも読むことができます。ぜひご活用ください。

URL: <https://www.scout.or.jp/scoutingmagazine/issue/>



2023 No.758 11

SCOUTING

次号予告

次号の『スカウティング』は、令和5年11月1日発行

新しい展開をみせる プログラム最前線!

来年開催の13NAの現在の情報、ローバースカウト集合訓練の様、スカウトの日の様子をお伝えします。

なんでも投稿先

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟事務局
『スカウティング』担当

〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3

電話 03-6913-6262 (代表) Eメール scouting@scout.or.jp

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

『スカウティング』2023年9月号 No.757 令和5年9月1日発行

発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3

『スカウティング』は、全国のボーイスカウト指導者(隊指導者、団委員、スカウトクラブ構成員、地区・県連盟・日本連盟役員)に1冊お送りしています。加盟登録住所にお送りしますので、住所の変更がある場合は届での登録住所変更の手続きをお願いします。住所変更の手続きがなされない場合、機関誌が発送できませんのでお早めのお手続きをお願いします。登録システムに伴い、①4月~8月に新規、追加登録申請が承認された場合:5月号から当該月号を同封にて送付(例:8月承認の場合は9月号に5月号、7月号を同封)②9月~翌年3月に登録申請が承認された場合:11月号から当該月号を同封にて送付。9月以降の「追加登録」で、5月号~9月号をご希望の場合は、日本連盟事務局『スカウティング』担当にご相談ください。バックナンバーの在庫がある場合はお送りいたします。発行月の前月10日以降は、送付作業工程に間に合えないため、当該月号は次号に同封されます。なお本誌の購読料は、登録料に含まれています。上記以外の方も別途購読いただくことが可能です。詳しくは日本連盟 Web サイト <https://www.scout.or.jp> から、スカウティング誌のページをご覧ください。

©公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 2023/写真、イラスト、記事のコピー・複製・転載を希望される場合は、日本連盟事務局広報担当(代表 TEL:03-6913-6262)までご連絡ください。

日本連盟Webサイト <https://www.scout.or.jp>

スカウトミュージアム・ライブラリー

2023年7月9日に新装オープンいたしました。



開館予定日は Web ページで随時更新中です。

※次月の開館スケジュールは前月の最終週を目途に更新しています。

世界のボーイスカウトのコーナーや簡単にできる工作を紹介するクラブコーナーなど、スカウトたちがボーイスカウト活動に興味を抱くような展示が満載です。ぜひ一度お立ち寄りください。



機関誌 2023年7月号

P14 「全国調査の取り組みとその活かし方」におきまして、スカウト経験ありの図とスカウト経験なしの図を誤って逆に掲載いたしました。

P22 「維持会員」におきまして、会員のお名前を誤って記載いたしました。

【岐阜】 誤:三浦秀夫 正:三浦英夫 / 【愛知】 誤:中村倫行 正:中村倫之

深くお詫言申し上げますとともに、ここに訂正内容を記載させていただきます。

ボーイスカウト活動のパスポート

マイページ登場！

2023年度から加盟登録システムが新しくなりました。これによって加盟登録だけでなくさまざまな情報や仕組みと連携したサービスの提供ができるようになりました。

この度、そのうちの1つとして全加盟員向けの「マイページ」機能をリリースします！これにより、スカウト・指導者の皆さんのスカウト活動をより便利にサポートします。アクセス方法やログインについては9月中を目処に各団へ発送される情報をご確認ください。



ポイント

■ 電子加盟登録証

マイページではQRコード付き加盟登録証が表示できるようになります。

今後提供が予定されているさまざまなサービスでこの電子加盟登録証がパスポートになります！

■ 自分の情報が確認 & 変更できる

登録システムの自分のデータの一部をマイページから変更できるようになりました。

メールアドレスを変更した時にすぐに反映されたり、引っ越しなどで住所が変わった時に変更内容

が事務手続きの担当者に通知されたりなど、変更手続きがスムーズになります。

■ 自分のスカウティングのあゆみを記録する

メモ機能を使うことで以下のような自分があゆんできたスカウティングを記録し、振り返ることができます。

- 進歩記録
- 指導者訓練歴
- 表彰履歴



今後について

今回のリリースだけではなく、維持会員やサポーター会員向けなどのサービスを今後もマイページを通して提供する予定です。最新情報はWebサイトをご確認ください。

<https://mypage.scout.or.jp/introduction>



SCOUTING 2023/9 757

スカウトイング
昭和33年12月15日 第3種郵便物認可
令和5年9月1日発行(奇数月1日発行)

発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3
電話 03 (6913) 6262 (代)

定価 ¥200 (税込)
郵便振替 00130-1-66119
口座名義 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

Photo by: SAJ



JTB はボーイスカウトを応援しております

JTB は今夏、大韓民国・セマングムで行われた第25回世界スカウトジャンボリー(25WSJ) 日本派遣団のお手伝いをさせていただきました。

株式会社 JTB 東京都品川区東品川二丁目3番11号

<https://www.jtb.co.jp/>

JTB

感動のそばに、いつも。

